

## 第2回 女性連合・私たちのひろば記録

2022年7月10日(日) 14:00~15:40 司会:米本 書記:吉高

参加者: 34名 (25画面 サテライト3教会12名含む)

オンライン

### プログラム

- ・開会挨拶:吉高会長
- ・祈り:吉高会長
- ・録画について
- ・参加者自己紹介:「何もわからないので、とりあえず聞いて知るだけでも・・・」という思いで参加される方が多かった。

テーマ:これからの女性連合への期待、願い。

### \*検討チームで話し合っていること(課題)

- ・会員減少 ・財政 ・次世代 ・ジェンダー枠
- ・今の働き(総会・信徒大会・世の光・世界祈祷週間・小羊会・沖縄平和・ABWU他)
- ※パワーポイントで現在の「女性連合」の理念や使命、働きを観て確認。 -

### \*検討チームで話し合っている理念(案)の紹介

世界に目を向けることを大事にしたい。

世界宣教として、一方的ではなく、双方向一緒に分かち合うことを大事にしたい。そして、共に生きる力を付けていきたい。(エンパワー)

交わりを大事にする中で、その出会いから支援に繋がることもあるのでは。

「ちむぐりさ」の心を大事にしたい。

「女性」とカギ括弧を付けて考えているが、マイノリティの方々の事を思うと「女性」という事で良いのか、ということもある。

### \*みなさんにとって女性連合とは?

女性会のテーマ、課題

これからの女性連合に期待することは? 意義、働き

+質問・意見受

・新たな理念の中に次世代に関する項目がないが、全国小羊会キャンプについては、どう考えていくのか。ひとつの大事な柱として入れて欲しい。

→ 活動を考えて行くときに入れていく事もできると思う。(全国小羊会キャンプ・リーダー

研修会、献身者デー)、次世代を育てていくことを大事な使命としてあげていくことも良いだろう。

・全国的にも教会でも女性会の役員の担い手がないと思う。働きが次の世代に繋がらない。高齢化がある。若い人が忙しい。(経済的困難)「世の光」の購読者が減りまた予算が大変になったという事は、女性連合を存続させるかも一度見直して、連盟の中に同等の位置で入って活動していても良いのでは。コロナの社会の中で財政をどうしていくか分析する必要もある。

→ 連盟が機構改革の中で信徒運動部門を抱えきれず切り離された歴史がある。

今、連盟も更に厳しい状況に置かれ改革しており、信徒部門を再度戻すことは難しいと思う。将来的には、女性も男性もなく連盟一つにという事になるかも分からないが、現在のところ連盟との二者協議でも話されていない。

・「世の光」、「女性連合」によって世界への目が開かれ信仰が育てられてきた。

「世の光」の奨学生のあかしを読むと、その活躍が嬉しい。

私たちの祈りによってその方がたが励まされ育ってこられたことを思うと「女性連合」の力と祈りによってだと思う。『世の光』がなくなるのは、とても寂しい。宣教師の方々の報告にも励まされてきた。存続を問うというより、存続するにはどうしたら良いかを、考えていきたい。教会でも女性たちが役員として立つようになり、女性連合や地方連合の役員に立つ人がいなくなっているのでは。色々なことを整理していくと良いのではないか。

・この時代「女性会・女性」という事に違和感をもっていたが、「女性」というように括弧を付けて良いなとおもった。自分の教会では、「女性」「男性」と括弧することを止め、分かれずに例会を持っている。祈祷週間も献身者デーも一緒に考えている。将来的に『世の光』を「男性」にも買ってもらい一緒に学びたいと思っている。カギ括弧付の「女性」「男性」としてのこれまでの歴史もあるので、早急に崩すことより、一緒にやっていく広がりをもって、『世の光』をみんなで用い、分かち合いたい。

→ 教役者にも読んでもらいたい。若者にも執筆を依頼していきたい。また、ジェンダーの観点から「女性会」「壮年会」を止めました、という教会もある。女性連合の活動参加『世の光』も止めます、という教会も出てきている。他方、女性会を止めても女性連合には繋がりが続けてくださる教会もある。「女性連合」の活動を進めていくうえでは、共生も排除もしないジェンダーマイノリティなどへの参加を広げていくことも可能かもしれない。

・今日参加して、子育て世代の方が参加されていないのが残念。そのような方の意見もぜひ伺いたい。次世代のことも考えて行く為に若い世代が参加しやすい時間帯など考えて欲しい。

・最近、神学校週間だったが、西南大学の神学部の学生が少なく、なおかつ女性の学生が現在いないことにショックだった。そのことについて考えて行きたい。

→価値観の変化もあるだろうが、若い世代の方の参加を求めている。

・「献身者デー」に豊橋から献身した牧師がいる。オンラインでメッセージをしてもらった。神学生とも繋がってあかしをして頂いている。

教会での宣教を通して、子どもたちへの信仰の継承ができればと思う。次に繋がる掘り起こしをしていきたい。

・壮年の方にも「世の光」を勧めてみようと思う。

・「青年会→女性会」へのお勧めをどのタイミングでしていけば良いのか分からない。

昔は、結婚したら女性会に入った。無理矢理女性会にいか、というのも違うと思う。声をかけづらい。また結婚したら女性会というのも違うと思う。女性会が大変だから入らないのか。

・どの地方連合も同じだろうが、役員を選任がとても難しい。

・壮年会が企画し、誰でも参加可という「井戸端会議」を立ち上げたが、参加したら女性は私ひとりだった。しかし、話していて関心事が男性たちとずいぶん違うと思った。関心を持っている事が人によっても違うので、今すぐ「女性会」を無くしてしまうのは無理かな、と感じている。しかし時代が変化しているので模索していかなければならない。

・「ちむぐりさ」という言葉を初めて知った。とても良い言葉だと思った。

・女性会メンバーはいるが、若い世代の方が役員を担う事や、「ひろば」へも声がけもしても良いのか戸惑う。礼拝には参加するがそこまで、それは何なのだろう。時代の中で、自己完結をしやすい。ネットで調べればすべて出てくる。それぞれ価値を置いていることが違い、信仰で一つになれると思うが、生活の時間の使い方が違う。

自分自身は、結婚して流れの中で「女性会」に入った。でも今の若い方は、難しく考えるのでは。でも、「女性連合」は、大事。「世の光」もとても大事。教会が主だが、それだけではどんどん埋没してしまう。『世の光』を読み、女性連合への参加で自分の枠から出る事ができてきた。時代の中で、人の考え方が変わってきたのだろうか。

→いかに若い方を繋いでいくか、巻き込んでいくかは今後のためにも大きな課題。

・『世の光』の編集委員をすることで自身の人生は変えられた。「世の光」の歴史を見ていくと、30年以上前は性で括られた会があるのかと思ってきた。しかし、ジェンダー平等と言

われるが、女性は実質的には、弱くされ、追いやられ、小さくされている。しかしそれは、隠され表に出てこない。意識してみていかないと分からない事が多い。それは暗く陰湿な部分なのだろう。小さくされているその側から見ていかないと分からない。

また『世の光』から時代の変遷が見えてくる。時代によって、テーマも変わってきているが、「女性会」の時代を見る目は、社会をどうするかということに聖書から問うてきている。今すぐには、「女性会」を無くしていくのは無理だと思う。いずれは、発展的解消で、本当の意味で男女差別が無くなった時に、一緒に活動できるのだろう。

今すぐは、無意識の差別が感じられていない中で「一緒」になると、大変なことになるだろう。時間はかかるだろうが、「ひろば」で意見を聞き合いながら気づいていきたい。

→私たち自身の中にもジェンダー差別が染みこんでいる事に意識し気づきながら、解放されていければ良いと思う。

#### 今後のスケジュール

次年度福岡大会で、機構改草原案を検討・協議していく

\*規約について：前文、第1章総則：第1条（名称）、第3条（目的）、第4条（事業）

#### ご案内

9月日程： 9月10日（土）10:00～、 11日（日）14:00～

HPに研修音声記録、レジメ、文字越し資料があります。パスワード：jbwu-sekai

閉会あいさつ：吉高会長

祈り：加藤 泉さん(検討チーム会メンバー)